

《先週の説教・御言葉》

4/30 使徒の働き 1章 3-14 節

「天に昇られた主イエス様」

小池 宏明 牧師

受難節から復活節へと主イエス・キリストの十字架と復活の御業を見ている。今回は天に昇られたイエス様のお姿を見る。復活されたイエス様は 40 日間に渡り弟子たちにあらわれ、弟子たちを祝福しながら、弟子を離れ天に上げられた。その後、弟子たちは、イエス様のご命令に忠えて、エルサレムに留まって主を賛美していた。

*心合わせて祈る

エルサレムに留まっていた弟子たちは、14 節「・・・兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。」使徒の働きには、十回も「心を一つにして」という単語が使われている。(その他、ローマ人への手紙には一回だけ)教会が世界に向けて、福音を伝えるために、まず、兄弟姉妹が心合わせて、いつも心を一つにして祈ることが大切である。それから、彼らは「祈っていた。」直訳は、「祈りに打ち込んでいた」または、「祈りに忙しかった」という意味になる。

私たちも、心を一つにして「祈りに忙しい」と言えるほどに、主の約束を信じて、ひたすら祈ろう。そのような祈りから、新しく救われる魂が生まれてくる。主が、私たちを用いて、救いの御業を前進させて下さるのだ。

*イエス・キリストの昇天と再臨

次に、キリストの昇天と再臨に注目する。(9-11 節) イエス様は、弟子たちがはっきりと見えるように、天に昇っていかれた。それは、キリストの勝利(罪と死に打ち勝った勝利)の確実性、救いの完成を意味する。もう一つは、キリストの再臨を意味する。誰の目にも、明らかに分かるように、イエス様は、もう一度、この世界においでくださるのだ。しかし、いつ再臨が起こるのか、私たち人間には分からない。父なる神様だけが、権威をもって定めておられる。

主の再臨を待ち望む私たちの生き方は、主イエス様がいつ来ても良いように、イエス・キリストにあってふさわしく生きる生き方である。「再臨が遅い」と感じるならば、それは父なる神様が忍耐しながらすべての人々に救いの機会を与えようとしておられるからだ。私たちキリストを頭とする教会は、主イエス・キリストの再臨によって、神の支配する神の国が完成すること、からだの完全な贖いとしての復活が起こることを期待しながら、主イエス様と共に、労苦し、忍耐し、祈りつつ歩んで行くのだ。私たちは、世の終わりまで、主の死と主の復活を告げ知らせる者である。